

トライアスロン選手の勝利達成欲求と原因帰属の研究  
A study of triathlon player's desire for higher standards winning and causal attribution

1K07A085-2-  
指導教員 主査 正木宏明先生

藏本葵  
副査 山崎勝男先生

【目的】

勝利達成欲求において

青山(2009)は、テニス選手の勝利達成欲求において、ある目標を持ってスポーツを継続的に練習している人には、レベルに関係なく勝ちたいという気持ちが生じているということが推察された、とあるが他種目であるトライアスロンにおいてはレベルによって差が生じるのかを検討したい。

トライアスロンにおける勝利達成欲求、すなわち勝つことをどの程度意識しているかを、本研究では調査する。

原因帰属において

スポーツには、対人スポーツ、個人スポーツ、集団スポーツにはそれぞれ特性があり種目によって原因帰属が異なることを示唆する研究(伊藤・島田1982)がある。このことから、競技種目独特の帰属因の検討が必要であると考えられる。

本研究ではレースにおける成功・失敗経験の原因帰属を調査する。

以上のことをふまえた上で、本研究では、プロトライアスリート選手から一般愛好者までを対象とし、勝利達成欲求と原因帰属の差異を競技レベルや性別、年齢に分けて調査する

【方法】

勝敗に対する態度調査票は、勝つことをどの程度意識しているかを測定できる「スポーツの勝敗に対する態度調査」(石井 1975)を使用した。原因帰属は(伊藤 1985)と(筒井 1992)の原因尺度を参考に作成されたものを使用した。レースにおける成功・失敗経験を答えてもらった。

【結果及び考察】

●トライアスロン選手のレベル別、性差、年齢差で勝利達成欲求を比較したところ、レベル別と年齢差で有意差が認められた。

これはエリート選手とエイジ選手によるレースの目的、意識の相違が影響していると本研究から推察された。

●年齢差では30歳未満にエリート選手が83%いたため、エリート選手とエイジ選手のレースにおける考え方の相違による結果が反映されたと考える。

●原因帰属においてもレベル別、性差、年齢差で比較を行った。

●エリート選手とエイジ選手の比較では成功・失敗経験ともにエリート選手の方が努力と他選手に高く帰属していた。

努力と帰属した理由は成功の裏では相当な努力が行われていたであろうと考え、失敗の場合も自らの努力不足と認めることができる。

他選手と帰属した理由はトライアスロンの競技特性上に関係する。バイクパートでドラフティングを行うことで他選手との順位をより意識することが考えられる。

●男性と女性の比較では成功経験において女性が指導者に帰属した。

女性は指導者に頼り、大きな影響を受けていることがうかがえた。

●失敗経験において女性の方が体調に帰属した。女性はトレーニングによって心身に強いストレスがかかると生理機能へ影響を及ぼすことが原因であると考えられる。

●30歳未満と30歳以上の比較では失敗経験において30歳未満の方が努力と他選手に帰属した。

努力に帰属したのは、年齢の増加にともない努力の限界が意識され、努力帰属が減少したのだと考えられる。また30歳未満にエリート選手が83%いたため、エリート選手とエイジ選手のレースにおける考え方の相違による結果が反映されたと考える。

【まとめ】

スポーツという行為は、日常ではなかなか得られない数多くの経験をアスリートに与えてくれる。その中でもアスリートにとって最も本質的なことは、自分の能力を高めていくことで達成感・自己実現を味わうことである。本研究では、エリート選手における勝利達成欲求が高かったが、今後、エリート選手はアスリートの本質である自己実現を意識することで更なる競技能力向上を図り、スポーツの喜びを味わうことができると考えた。

原因帰属においては、成功・失敗に対する原因帰属のプロセスを十分考慮した上で、私たちが経験する成功・失敗に対処しなければならないと考えられた。